

**第6次基本計画策定専門調査会  
安全・安心WG  
第1回**

2025年3月4日

日本福祉大学／みずほリサーチ&テクノロジーズ

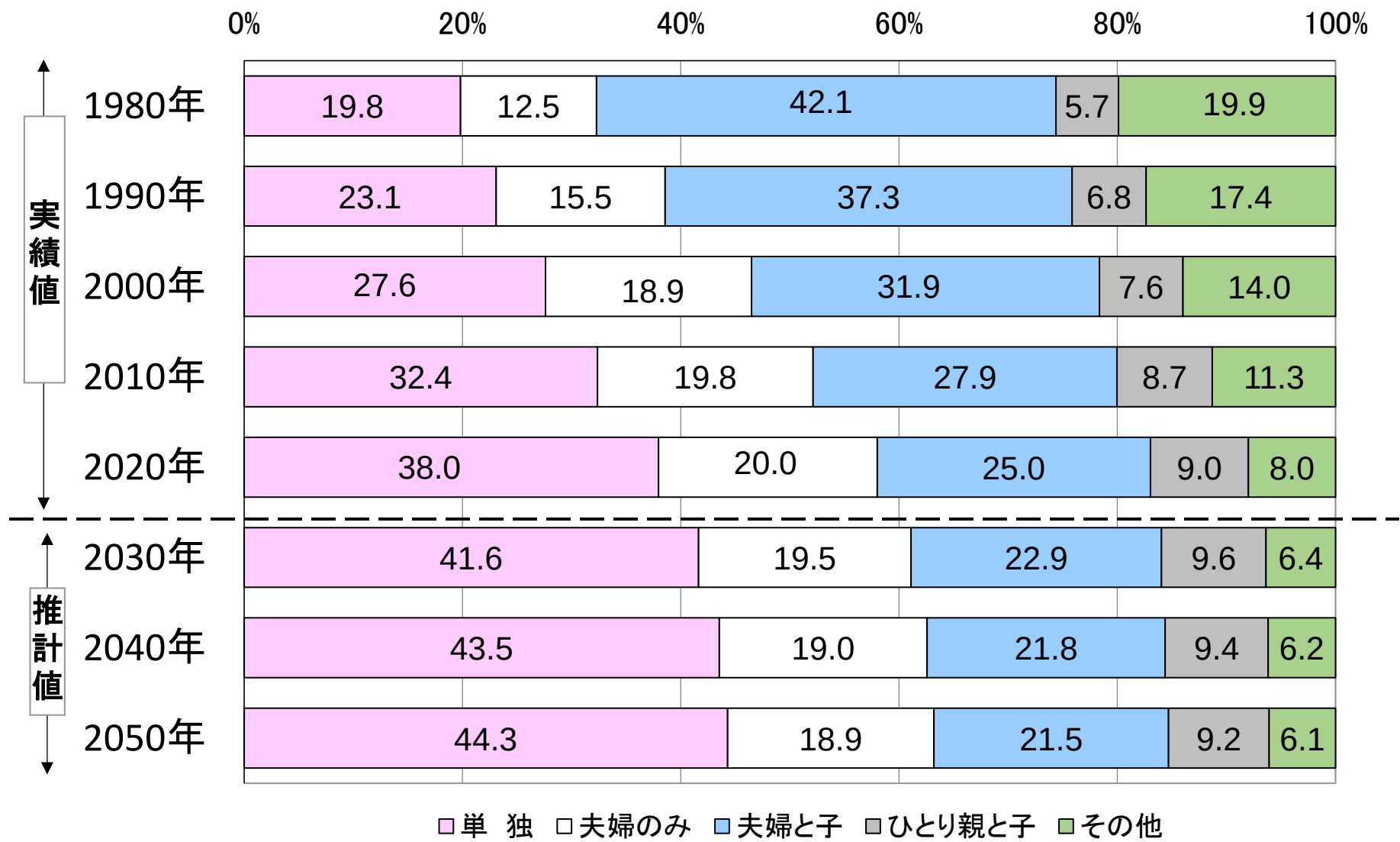
藤森 克彦

# 目次

- I. 単身世帯の増加状況—高齢期を中心に
- II. 単身高齢者が増加する中での課題—孤立と貧困
- III. 高齢期の貧困を防ぐために求められること

# I . 単身世帯の増加状況—高齢期を中心に

# 全世帯数に占める世帯類型別割合の推移



(資料) 実績値：総務省『国勢調査』時系列データ、  
推計値：国立社会保障・人口問題研究所『日本の世帯数の将来推計』（2024）  
に基づき、藤森作成。

世帯主65歳以上の家族類型別世帯数の推移

| 年次       | 一般世帯数 (1,000世帯) |        |        |       |       |        |       |
|----------|-----------------|--------|--------|-------|-------|--------|-------|
|          | 総数              | 単独     | 核家族世帯  |       |       |        | その他   |
|          |                 |        | 総数     | 夫婦のみ  | 夫婦と子  | ひとり親と子 |       |
| 世帯主65歳以上 |                 |        |        |       |       |        |       |
| 2020年    | 20,973          | 7,378  | 11,635 | 6,749 | 2,974 | 1,912  | 1,960 |
| 2025年    | 21,786          | 8,155  | 11,919 | 6,743 | 3,097 | 2,079  | 1,712 |
| 2030年    | 22,396          | 8,870  | 11,893 | 6,614 | 3,093 | 2,186  | 1,632 |
| 2035年    | 23,057          | 9,604  | 11,805 | 6,501 | 3,066 | 2,238  | 1,648 |
| 2040年    | 24,117          | 10,413 | 11,978 | 6,563 | 3,139 | 2,275  | 1,726 |
| 2045年    | 24,312          | 10,751 | 11,842 | 6,510 | 3,116 | 2,216  | 1,718 |
| 2050年    | 24,041          | 10,839 | 11,512 | 6,363 | 3,017 | 2,132  | 1,690 |

1.47倍

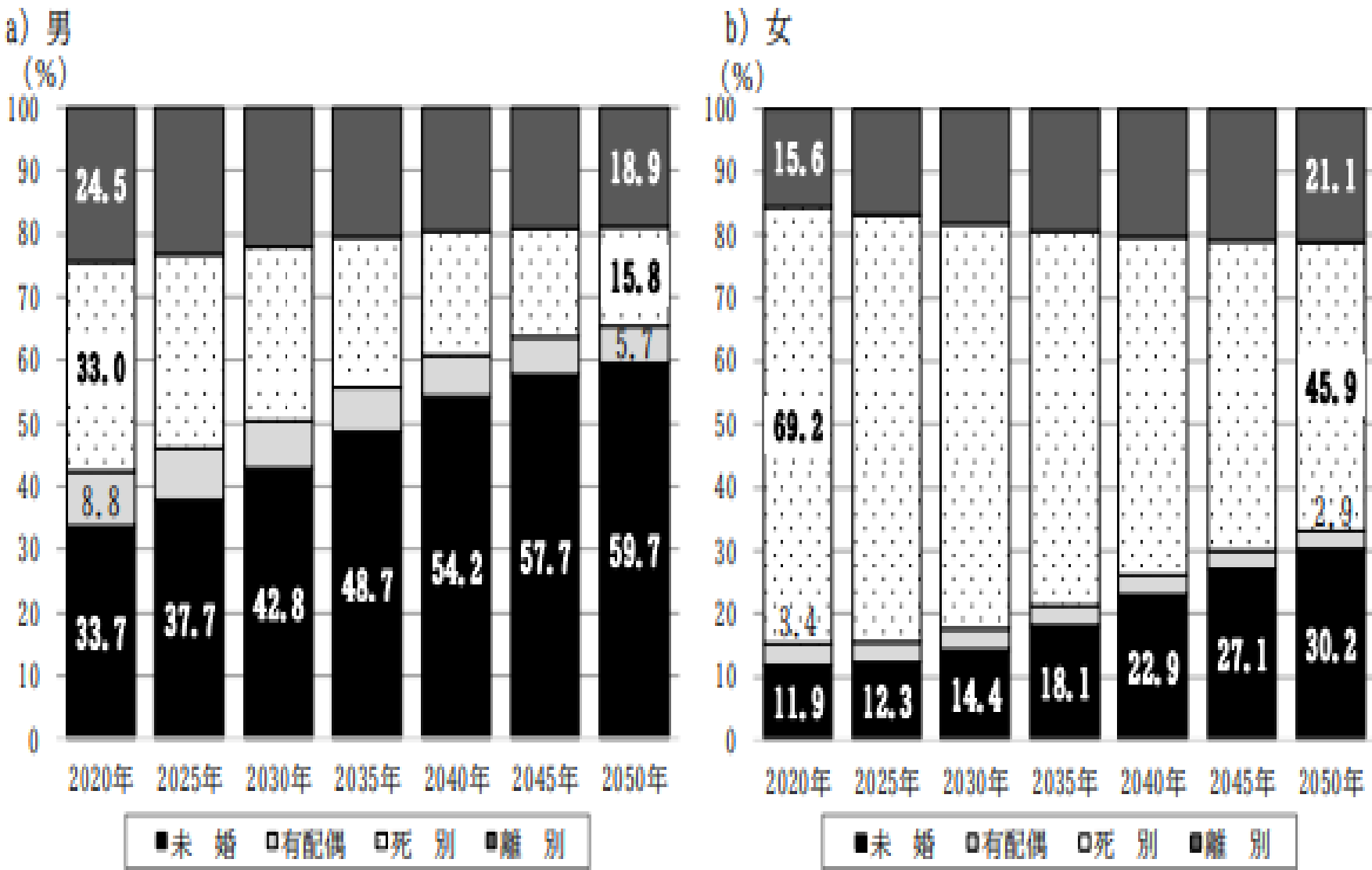
(資料) 国立社会保障・人口問題研究所 (2024) 『日本の世帯数の将来推計 (2024年推計)』 11頁より転載。

男女別にみた各高齢人口別の独居率

|    |       | (%)   |       |       |       |       |       |       |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 男  |       | 2020年 | 2025年 | 2030年 | 2035年 | 2040年 | 2045年 | 2050年 |
| 男性 | 65歳以上 | 16.4  | 18.3  | 20.3  | 22.3  | 24.2  | 25.4  | 26.1  |
|    | 75歳以上 | 14.3  | 16.6  | 18.5  | 20.0  | 21.7  | 23.5  | 24.9  |
|    | 85歳以上 | 15.9  | 17.2  | 18.4  | 19.5  | 20.8  | 21.6  | 22.4  |
| 女性 | 65歳以上 | 23.6  | 25.4  | 26.9  | 27.9  | 28.3  | 28.7  | 29.3  |
|    | 75歳以上 | 27.7  | 29.1  | 30.2  | 31.0  | 31.3  | 31.5  | 31.8  |
|    | 85歳以上 | 27.7  | 30.9  | 32.5  | 33.0  | 32.9  | 32.2  | 32.2  |

注) 2020年は、年齢不詳をあん分した数値である。(資料) 国立社会保障・人口問題研究所 (2024) 13頁より転載。

# 65歳以上の単身者の配偶関係別割合



(資料) 国立社会保障・人口問題研究所 (2024) 『日本の世帯数の将来推計 (2024年推計)』 14頁より転載。

## Ⅱ．単身高齢者が増加する中での課題 一孤立と貧困

# (1)「社会的孤立」の指標

■ 先行研究：おおよそ以下の指標から測定されることが多い

A. 「会話欠如型孤立」：**会話頻度**が2週間に1回以下。

B. 「頼れる人欠如型孤立」：**頼れる人がいない**。

「①～⑨の9項目すべてにおいて、「頼れる人がいない」を選択した人。

①子どもの世話や看病、②(子ども以外の)介護や看病、③重要な事柄の相談、④愚痴を聞いてくれること、⑤喜びや悲しみを分かち合うこと、⑥いざという時のお金の援助、⑦日頃のちょっとしたことの手助け、⑧家を借りる時の保証人を頼むこと、⑨成年後見人・保佐人を頼むこと

C. 「手助けする相手欠如型孤立」：**手助けする相手**がいない

「(1)家族・親族、(2)友人・知人、(3)近所の人、(4)職場の人が、7項目について助けを必要とするときに、(1)～(4)の全ての相手について「①～⑦までのことはしない」を選択した人。

(資料) 国立社会保障・人口問題研究所 (2018) 『2017年 生活と支え合いに関する調査結果の概要』 全国調査、有効回答票：19,800に基づく。



世帯類型別にみた社会的孤立の実態(2017年)

(単位: %)

|              |               |    | 会話欠如型<br>(2週間に1回以下) | 「頼れる人」<br>欠如型 | 「手助けする相手」欠如型 |
|--------------|---------------|----|---------------------|---------------|--------------|
| 単身世帯         | 高齢<br>(65+)   | 男性 | 14.8                | 11.1          | 17.4         |
|              |               | 女性 | 5.4                 | 4.2           | 9.7          |
|              | 非高齢<br>(0-64) | 男性 | 8.3                 | 6.9           | 9.4          |
|              |               | 女性 | 4.4                 | 1.7           | 2.2          |
| 夫婦のみ世帯       | 夫婦とも高齢        |    | 2.4                 | 1.7           | 3.4          |
|              | 夫婦とも非高齢       |    | 1.1                 | 1.5           | 1.3          |
| 三世帯世帯(子どもあり) |               |    | 0.5                 | 0.5           | 2.5          |
| 二世帯世帯(子どもあり) |               |    | 0.6                 | 0.5           | 0.9          |
| ひとり親世帯       |               |    | 1.8                 | 0.4           | 0.5          |
| 総数(平均値)      |               |    | 2.2                 | 1.7           | 3.2          |

(注) 「子ども」とは20歳未満の世帯員。網掛け部分は、総数の平均値よりも5%ポイント以上高い箇所。  
(資料) みずほリサーチ&テクノロジーズ(2021)『社会的孤立の実態・要因に関する調査分析等研究事業報告書』厚生労働省令和2年度社会福祉推進事業、29頁に基づき、藤森作成。データは、国立社会保障・人口問題研究所(2018)『2017年 社会保障・人口問題基本調査 生活と支え合いに関する調査結果の概要』に基づく。

## (2) 高齢期の相対的貧困率

世帯類型別にみた相対的貧困率（2021年）  
（単位：％）

|             | 高齢男性 | 高齢女性 |
|-------------|------|------|
| 単身世帯        | 30.0 | 44.1 |
| 夫婦のみ世帯      | 14.4 | 14.0 |
| 夫婦と未婚子のみ世帯  | 11.4 | 11.7 |
| 一人親と未婚子のみ世帯 | 25.1 | 31.5 |
| 三世代世帯       | 7.7  | 8.0  |
| その他世帯       | 17.2 | 20.3 |

配偶関係別にみた  
相対的貧困率（2022年）

|    | 高齢男性 | 高齢女性 |
|----|------|------|
| 既婚 | 13.5 | 13.5 |
| 未婚 | 37.1 | 43.1 |
| 死別 | 23.2 | 32.0 |
| 離別 | 29.8 | 43.6 |

（注）網掛け部分は、相対的貧困率**40%**以上の箇所。

（資料）阿部彩（2024）「相対的貧困率の動向（2022調査update）」

JSPS 22H05098,

<https://www.hinkonstat.jp/>より引用。

## **Ⅲ. 高齢期の貧困を防ぐために求められること**

# 公的年金の給付水準を高めるには

## ＜公的年金の給付3原則＞

- 賃金が高いほど年金は増える
- 長く働くほど年金は増える（＝被保険者期間が長いほど）
- 受給を繰り下げるほど年金は増える

（資料）権丈善一（2024）「財政検証 モデル年金を超えて」  
NHK『視点・論点』（2024年7月30日放映）より引用。

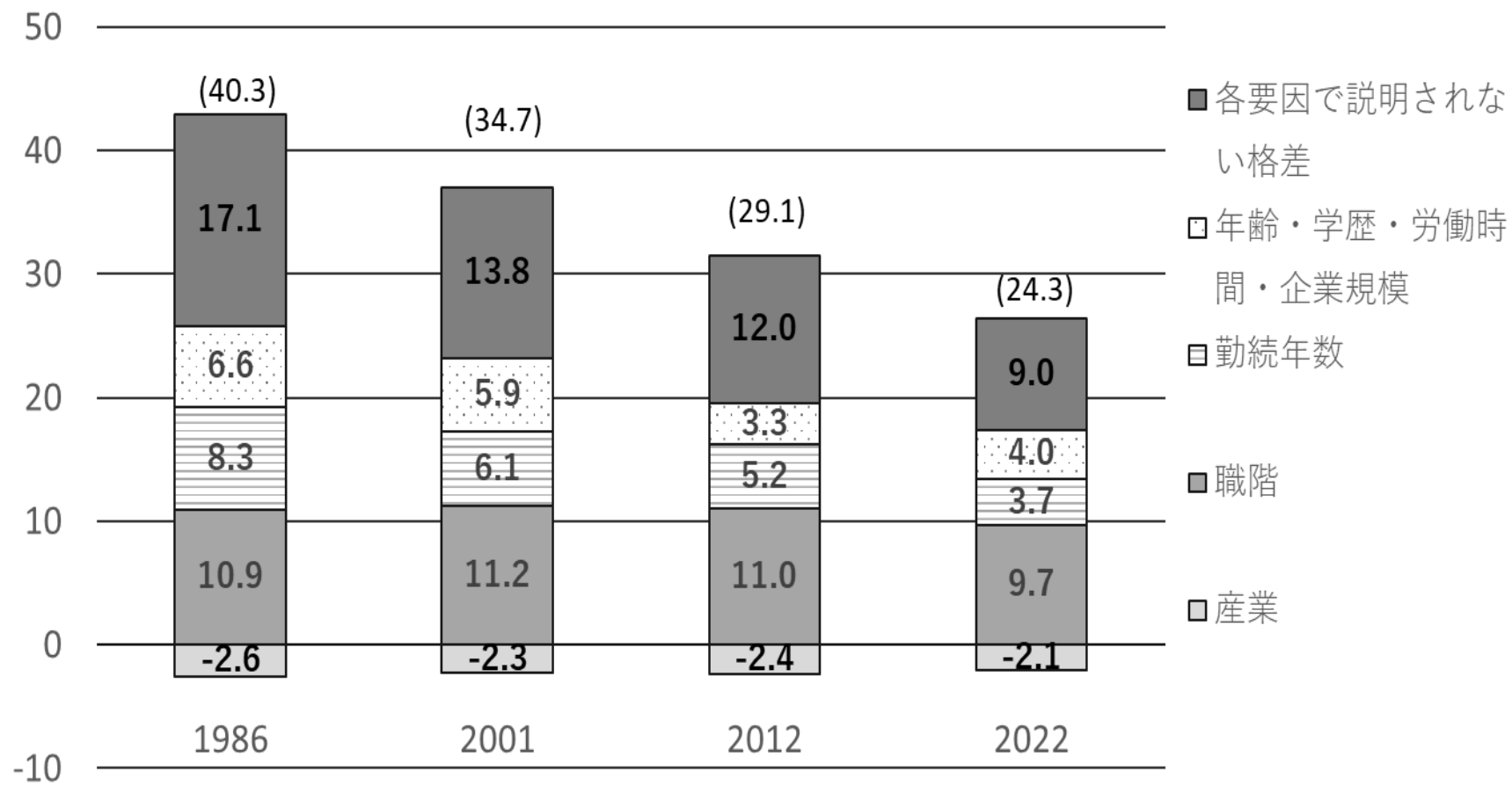
## (1) 男女の賃金格差(2023年)

(単位：千円)

| 年齢    | ①男性賃金 | ②女性賃金 | ②／①(%)       |
|-------|-------|-------|--------------|
| 20～24 | 229.3 | 219.6 | <b>95.77</b> |
| 25～29 | 267.8 | 245.8 | <b>91.78</b> |
| 30～34 | 302.1 | 259.6 | <b>85.93</b> |
| 35～39 | 337.9 | 270.1 | <b>79.93</b> |
| 40～44 | 371.8 | 276.8 | 74.45        |
| 45～49 | 396.9 | 281.7 | 70.98        |
| 50～54 | 417.7 | 285.9 | 68.45        |
| 55～59 | 427.4 | 281.7 | 65.91        |
| 60～64 | 334.2 | 246.6 | 73.79        |
| 65～69 | 293.3 | 217.1 | 74.02        |

(資料)厚生労働省「遺族年金制度等の見直しについて」(第17回社会保障審議会年金部会、2024年7月30日、資料4)より転載。原資料は、厚生労働省「令和5(2023)年賃金構造基本統計調査」。

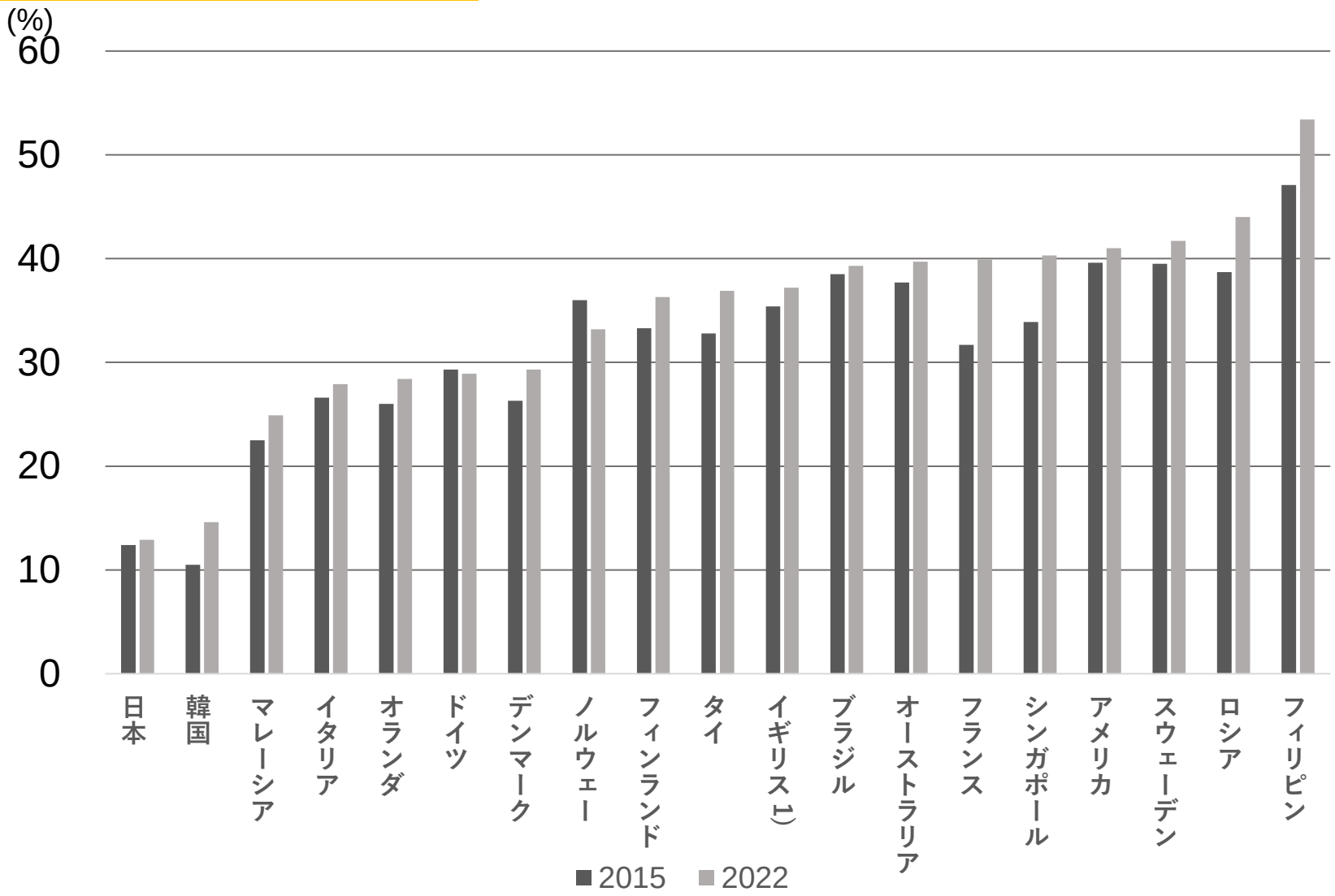
# 男女間賃金格差の要因の推移



(注) 括弧内は、一般労働者の所定内給与額の男女間格差。

(出所) 権丈英子「女性が活躍する日本経済を実現するためにワーク・ライフ・バランス施策のアップデートを」(『月刊資本市場』No.460, 2023年12月)

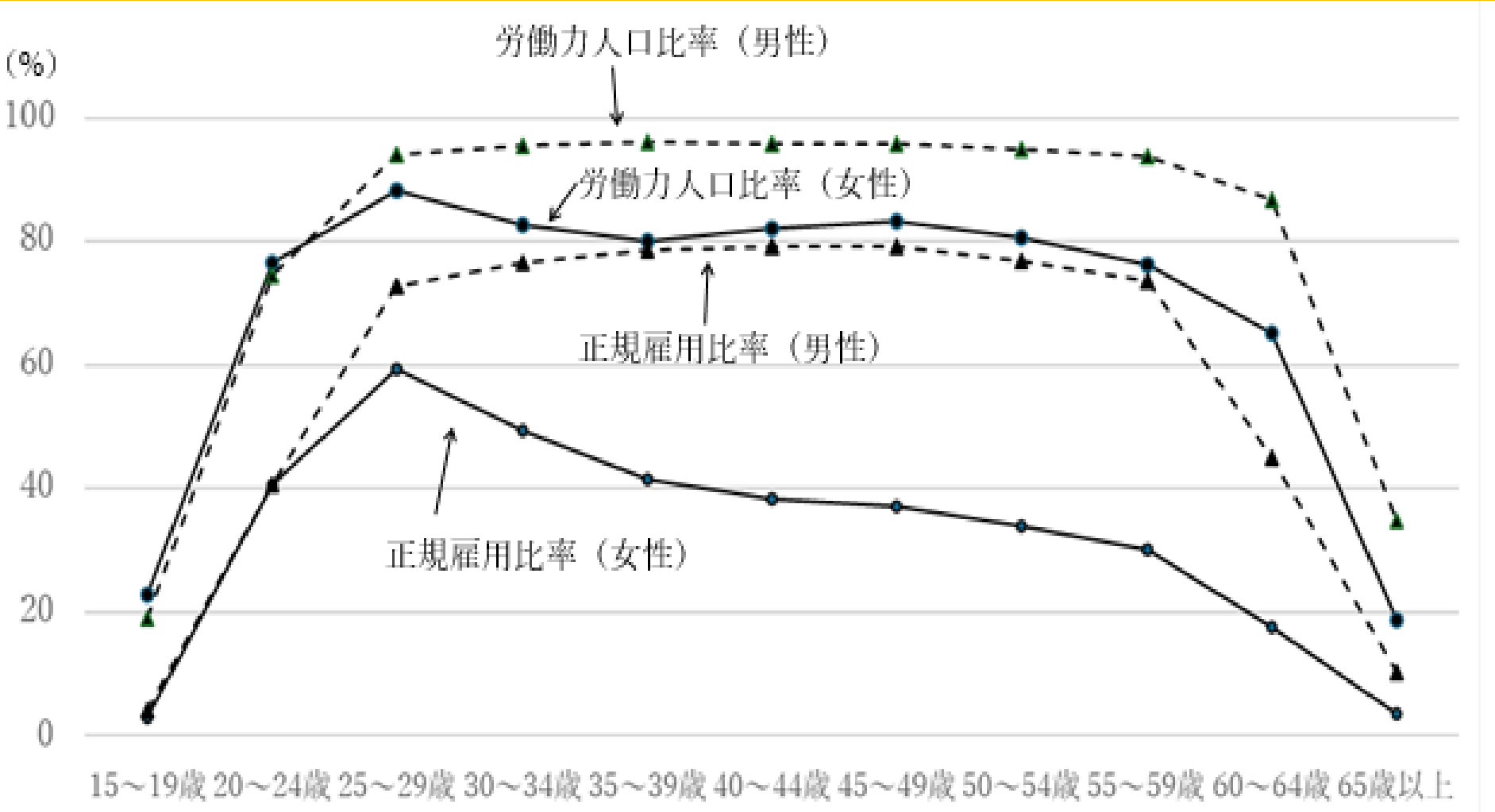
# 女性管理職比率



(注) 2022年数値の昇順で掲載。2022年データについて、マレーシアは2020年、フィリピン、オーストラリアは2021年の数値。

(出所) 独立行政法人労働政策研究・研修機構『データブック国際労働比較2024』(2024年4月17日掲載)

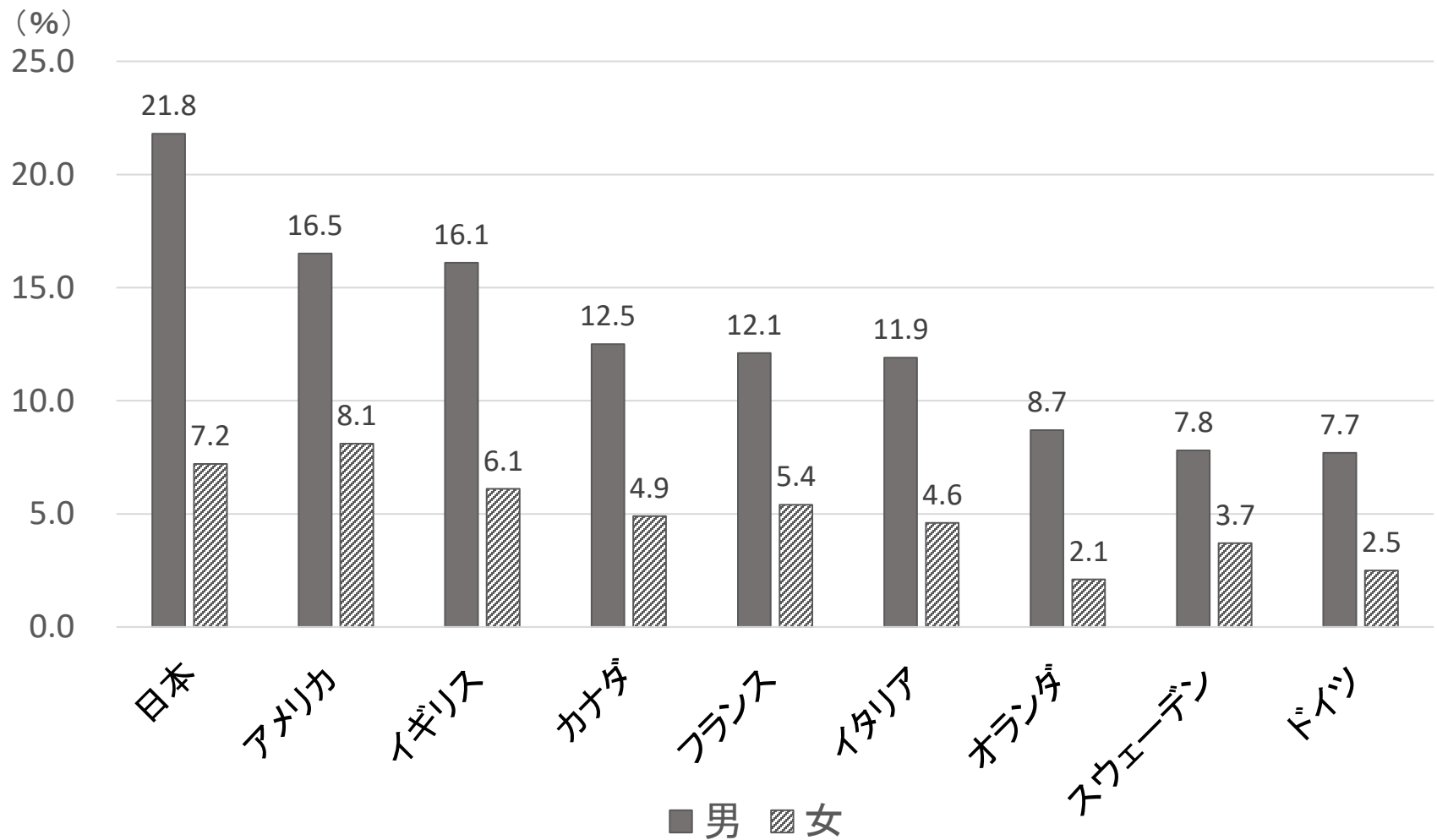
## (2) 男女別・年齢階級別の労働力人口比率と正規雇用比率（2023年）



(注) 1. 「労働力人口比率」とは、当該年齢階層別人口に占める労働力人口（就業者＋完全失業者）の割合。  
2. 「正規雇用比率」とは、当該年齢階層別人口に占める「役員」「正規の職員・従業員」の割合。  
(資料) 内閣府男女共同参画局（2023）『男女共同参画白書 令和 6（2023）年版』p.9 より、筆者作成。データの  
出典は、総務省「労働力調査（基本調査）」。



# 週49時間以上の長時間労働者の割合（2022年）

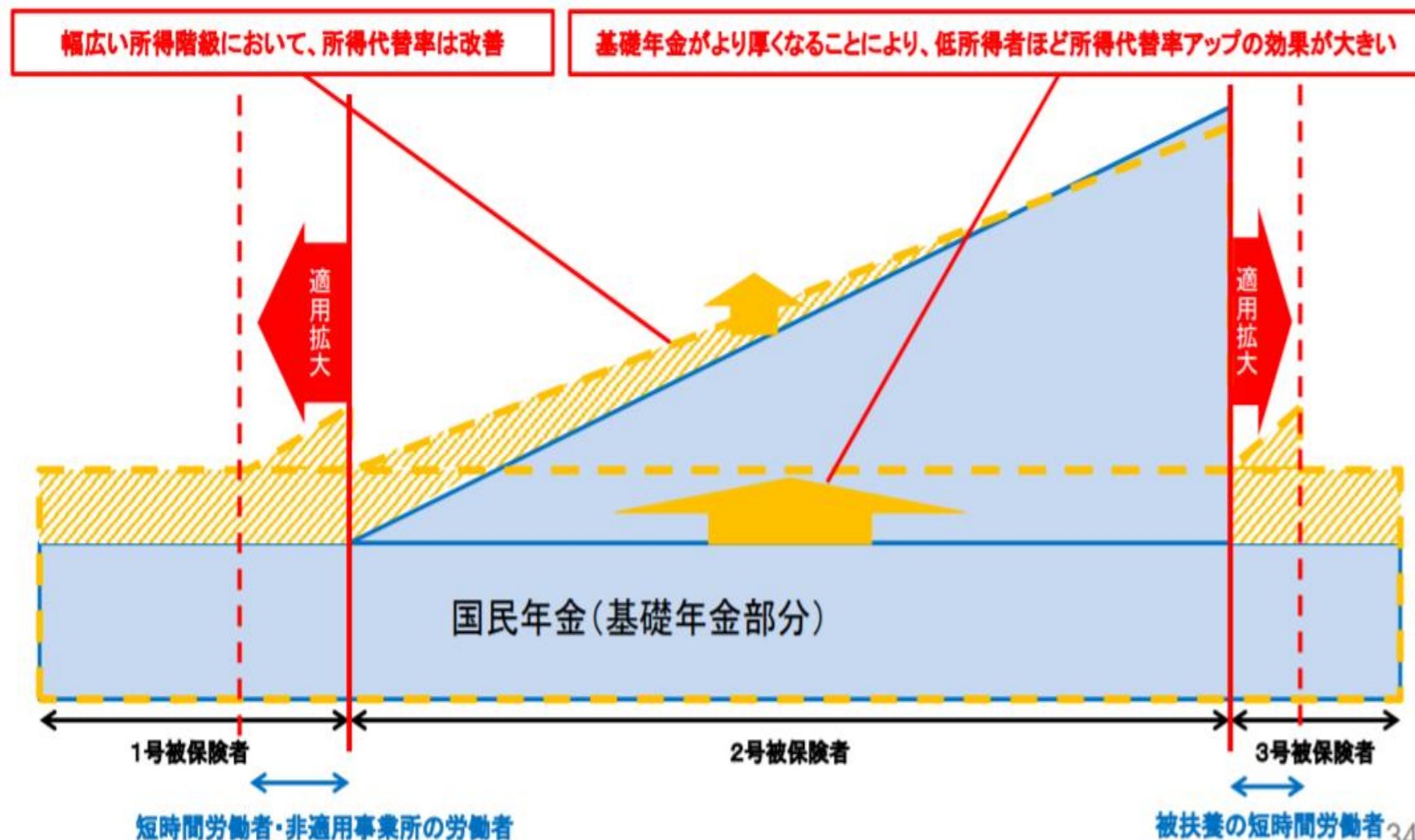


（注）イギリスは2019年数値が最新数値。

（出所）独立行政法人日本労働政策研究・研修機構『データブック国際労働比較2024』（2024年3月28日）

### (3) 被用者保険の適用拡大

- 第1号被保険者の約4割が短時間労働者(被用者)。
- 被用者保険の適用拡大によって、短時間労働者の給付水準が増える。



(資料) 厚生労働省年金局 (2018b) 「被用者保険の適用拡大について」 (第4回社会保障審議会年金部会、2018年9月14日、資料1、34頁) より転載。

## ご参考資料

# 適用拡大によって未婚の短時間労働者における防貧機能の強化

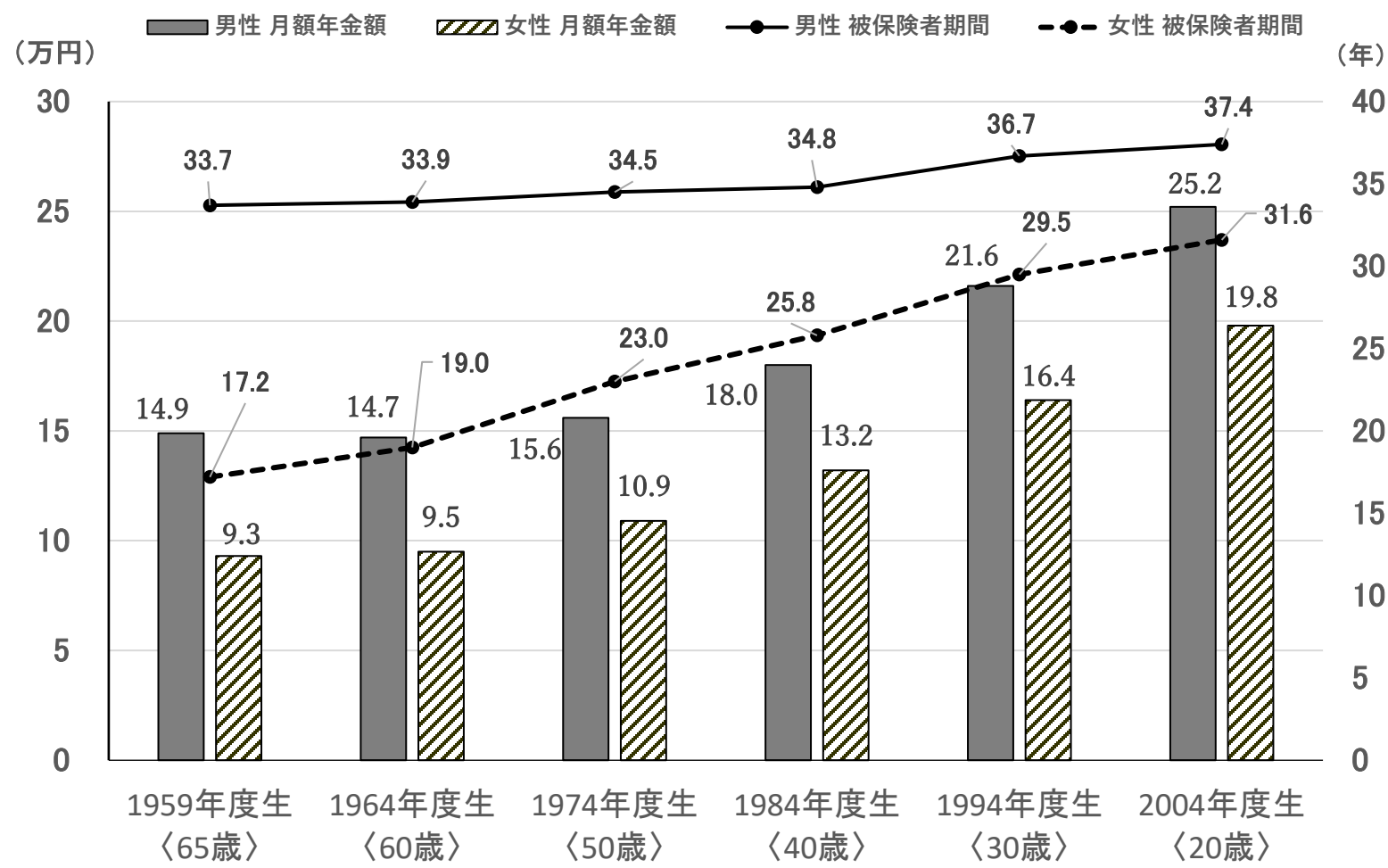
- 未婚者や離・死別者は、短時間労働で生活を維持する人の比率が高い。
- 所定労働時間を延長した人の割合が高い。

(単位: %)

|           |                      | 総 計  | 未婚   | 離・死別 | 既婚   |
|-----------|----------------------|------|------|------|------|
| 短時間労働者の状況 | 働くのを辞めると日々の生活が維持できない | 32.8 | 52.7 | 66.7 | 26.8 |
| 適用拡大の影響   | 適用拡大によって働き方が変化した     | 15.8 | 15.0 | 18.4 | 15.8 |
|           | うち所定労働時間を延長          | 54.9 | 71.4 | 58.8 | 54.3 |
|           | うち所定労働時間を短縮          | 32.7 | 11.4 | 20.6 | 35.3 |

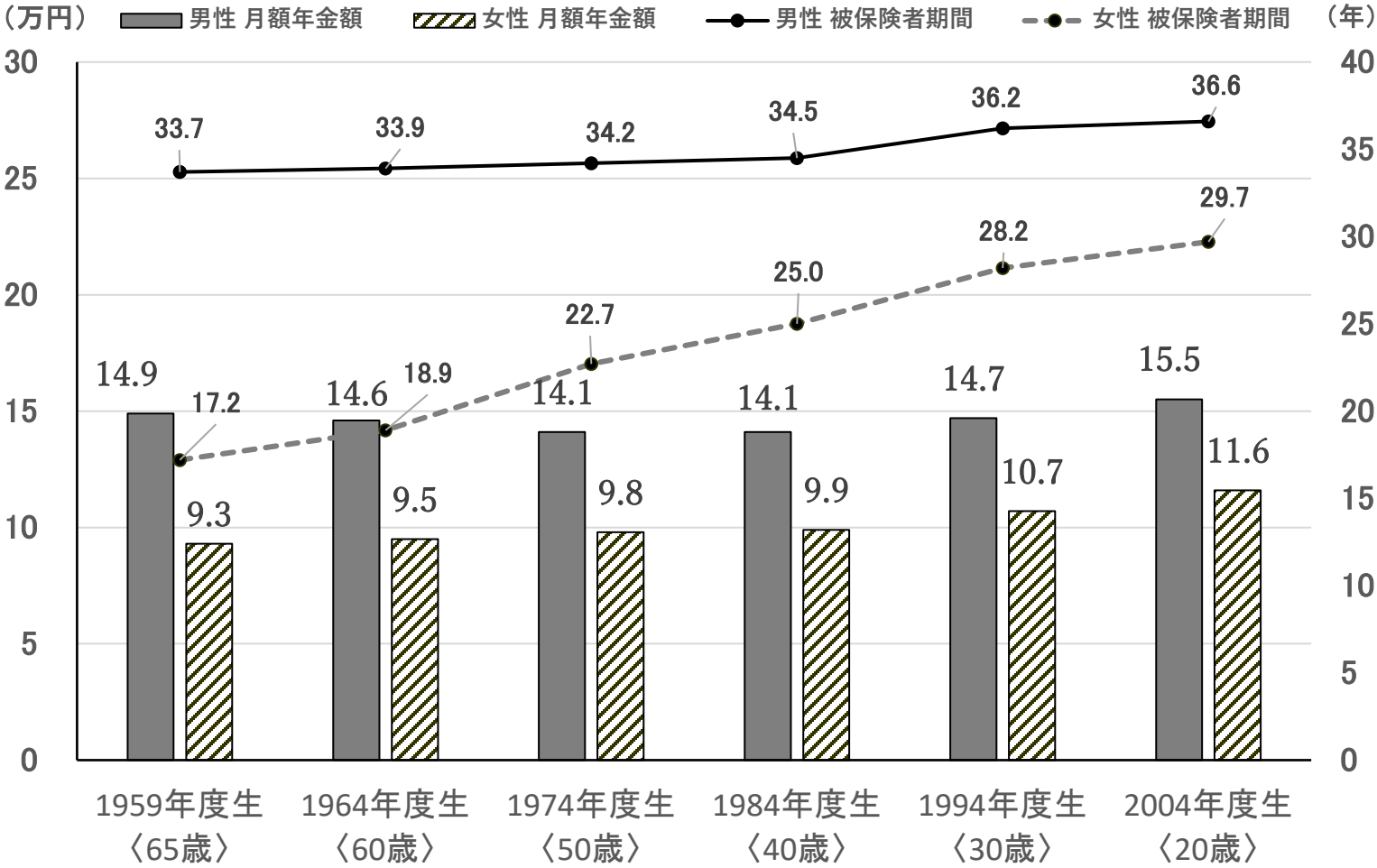
(資料) (独)労働政策研究・研修機構(2018)『「社会保険の適用拡大への対応状況等に関する調査」及び「社会保険の適用拡大に伴う働き方の変化に関する調査」結果』(JILPT調査シリーズ No.182、2018年8月)

# 出生年別にみた厚生年金の年金月額と被保険者期間 ―「成長型経済移行・継続ケース」(2024年財政検証)



(資料) 厚生労働省 (2024) 「2024年財政検証結果」 (社会保障審議会年金部会、2024年7月3日、資料4-2, pp.12-13) に基づき、筆者作成。

# 出生年別にみた厚生年金の年金月額と被保険者期間 ー 「過去30年投影ケース」(2024年財政検証)



(資料) 厚生労働省 (2024) 「2024年財政検証結果」 (社会保障審議会年金部会、2024年7月3日、資料4-2, pp.12-13) に基づき、筆者作成。

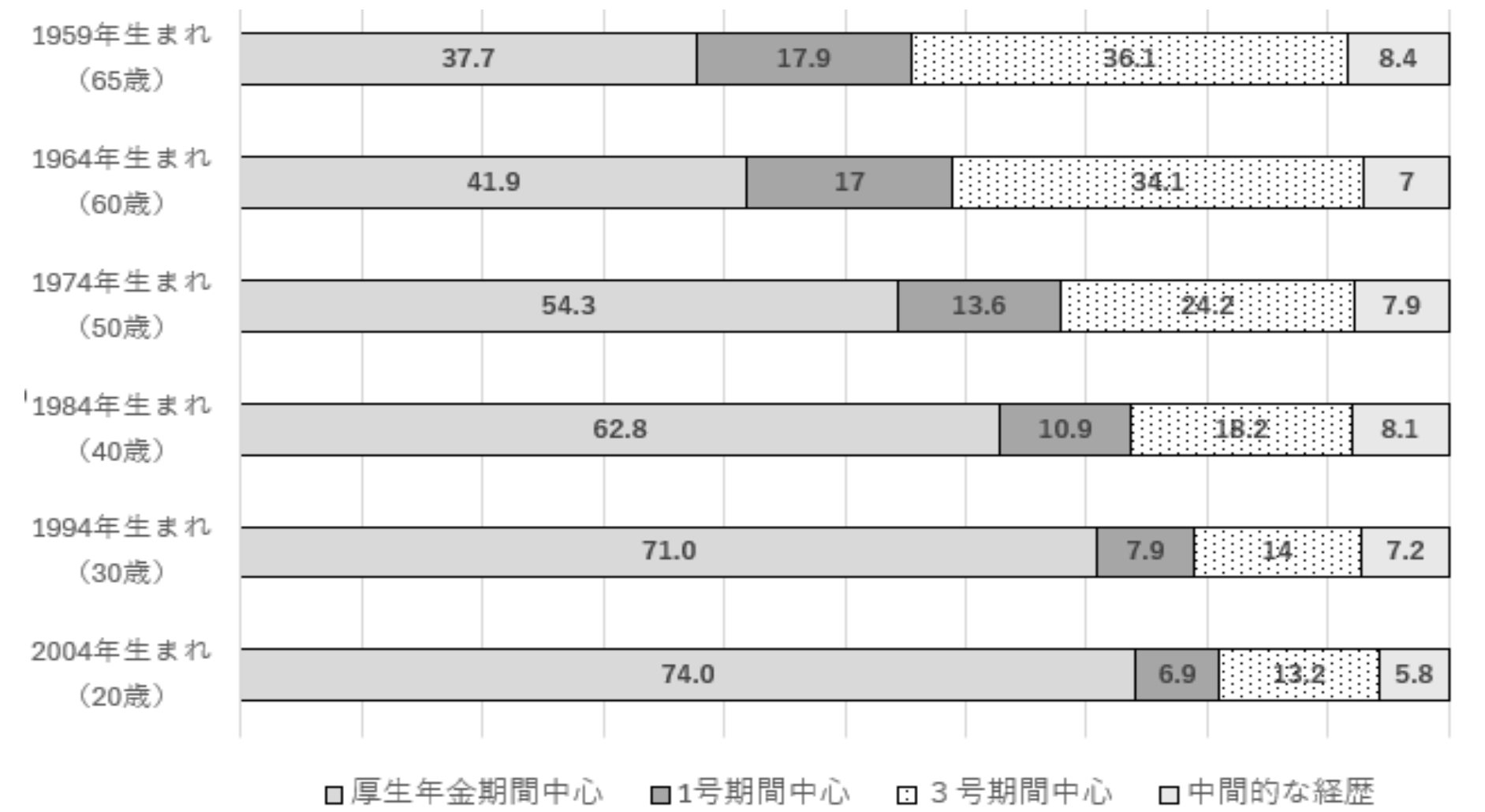
# 老齡年金の平均年金月額(指数)の変化

|                       |    | 1959 年度<br>生<br>〈65 歳〉 | 1964 年度<br>生<br>〈60 歳〉 | 1974 年度<br>生<br>〈50 歳〉 | 1984 年度<br>生<br>〈40 歳〉 | 1994 年度<br>生<br>〈30 歳〉 | 2004 年度<br>生<br>〈20 歳〉 |
|-----------------------|----|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| 成長型経済<br>移行・継続<br>ケース | 女性 | 100                    | 102                    | 117                    | 142                    | 176                    | 213                    |
|                       | 男性 | 100                    | 99                     | 105                    | 121                    | 145                    | 169                    |
| 過去 30 年投<br>影ケース      | 女性 | 100                    | 102                    | 105                    | 106                    | 115                    | 125                    |
|                       | 男性 | 100                    | 98                     | 95                     | 95                     | 99                     | 104                    |

(注) 現在 65 歳 (1959 年生) の平均年金月額を 100 とした場合に、各年齢の人が 65 歳時に受け取る平均年金月額の指数。

(資料) 厚生労働省 (2024) ,資料 4 - 2, pp.12-13 に基づき、筆者作成。

女性の出生年別にみた現役時代の経歴類型別の変化ー過去30年投影ケースー



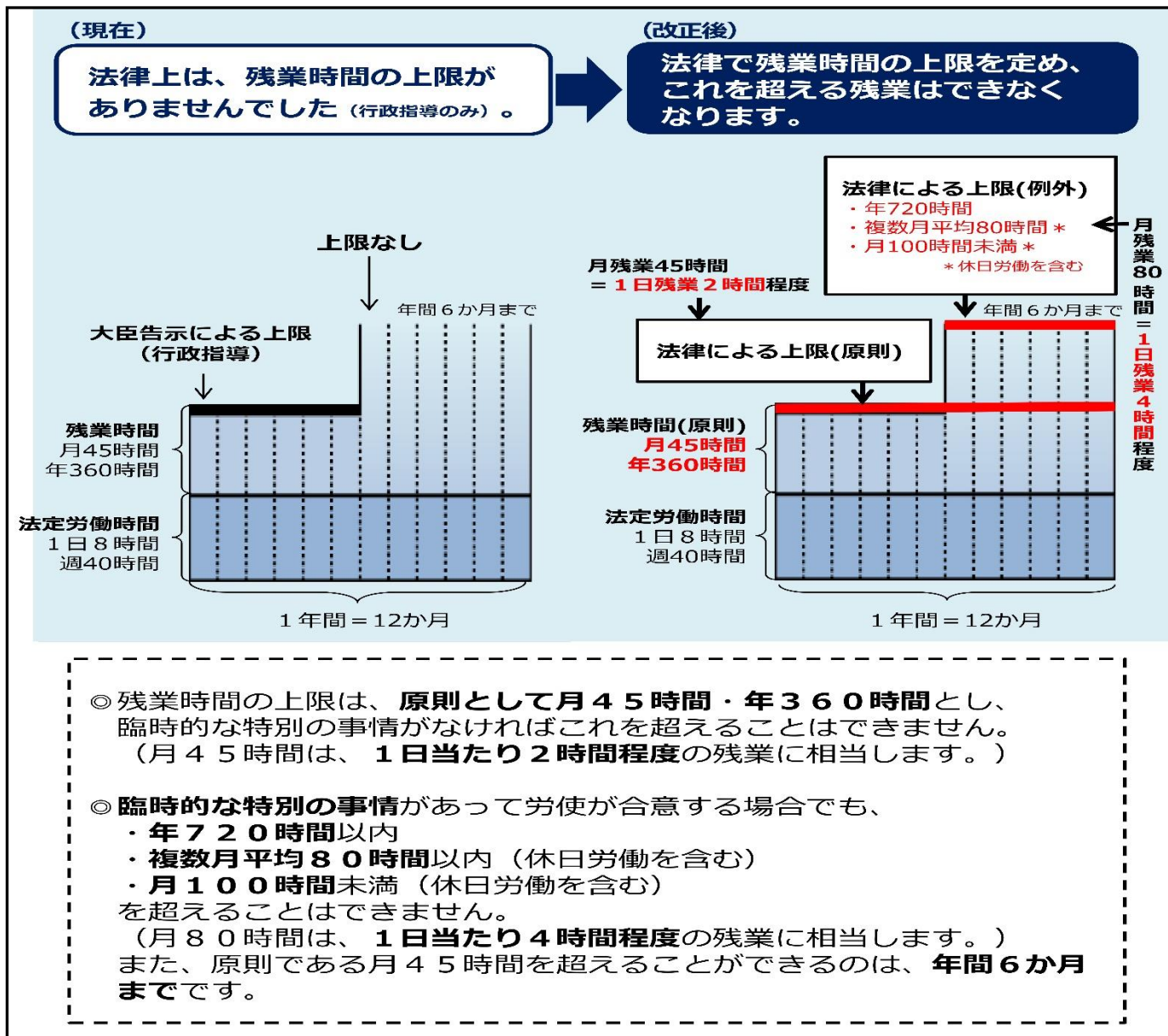
(注) 「厚生年金期間中心」とは、厚生年金被保険者期間が**20年以上**の者をいう。「1号期間中心」「3号期間中心」も、各被保険者期間が**20年以上**の者をいう。「中間的な経歴」とは、上記のいずれでもない者をいう。

(資料) 厚生労働省 (2024) 「2024年財政検証結果」 (社会保障審議会年金部会、2024年7月3日、資料4-2, p.7) に基づき、筆者作成。

24

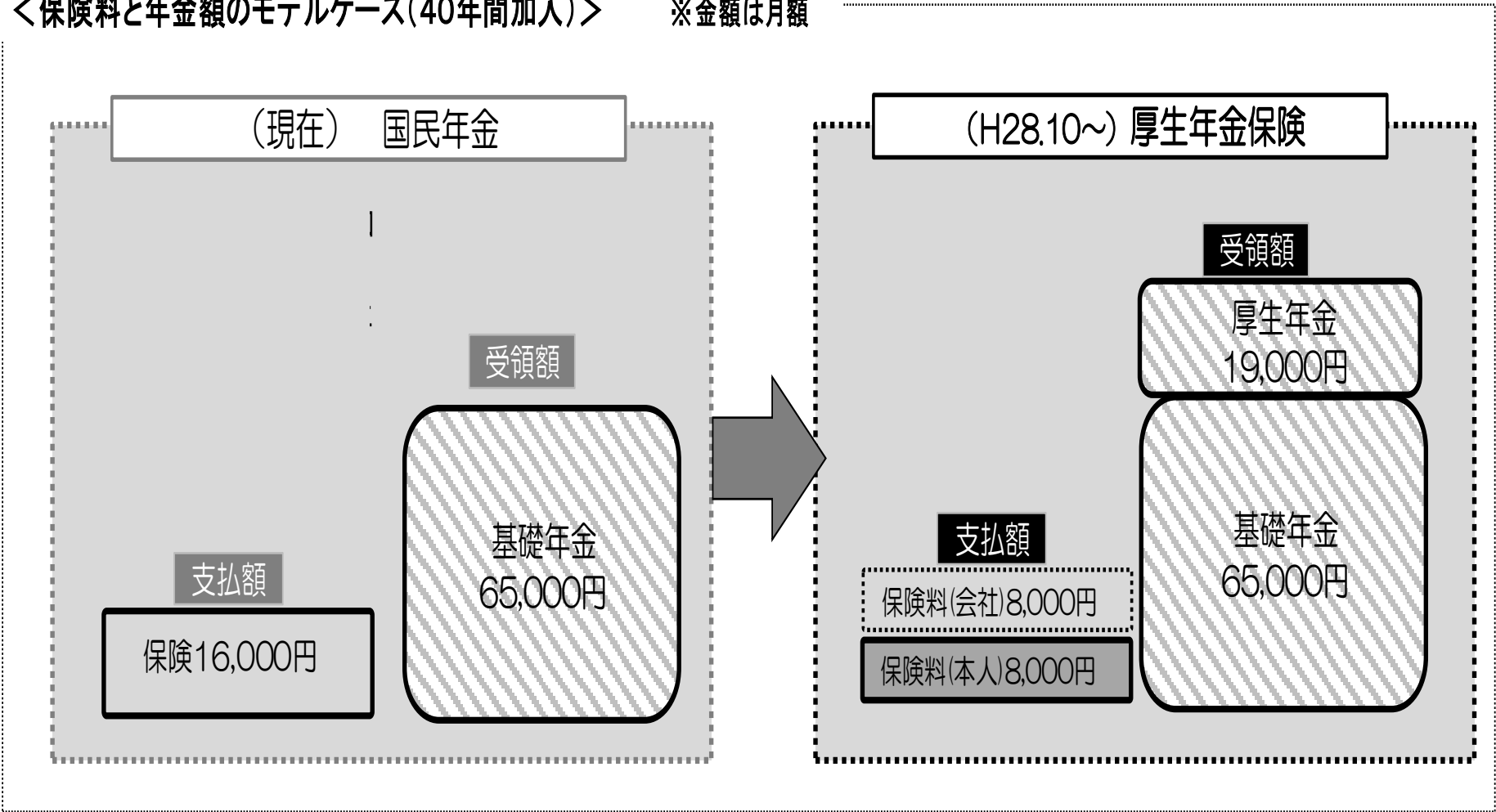


## 残業時間の上限規制(2019年4月施行)



# 公的年金の保険料と年金額のモデルケース

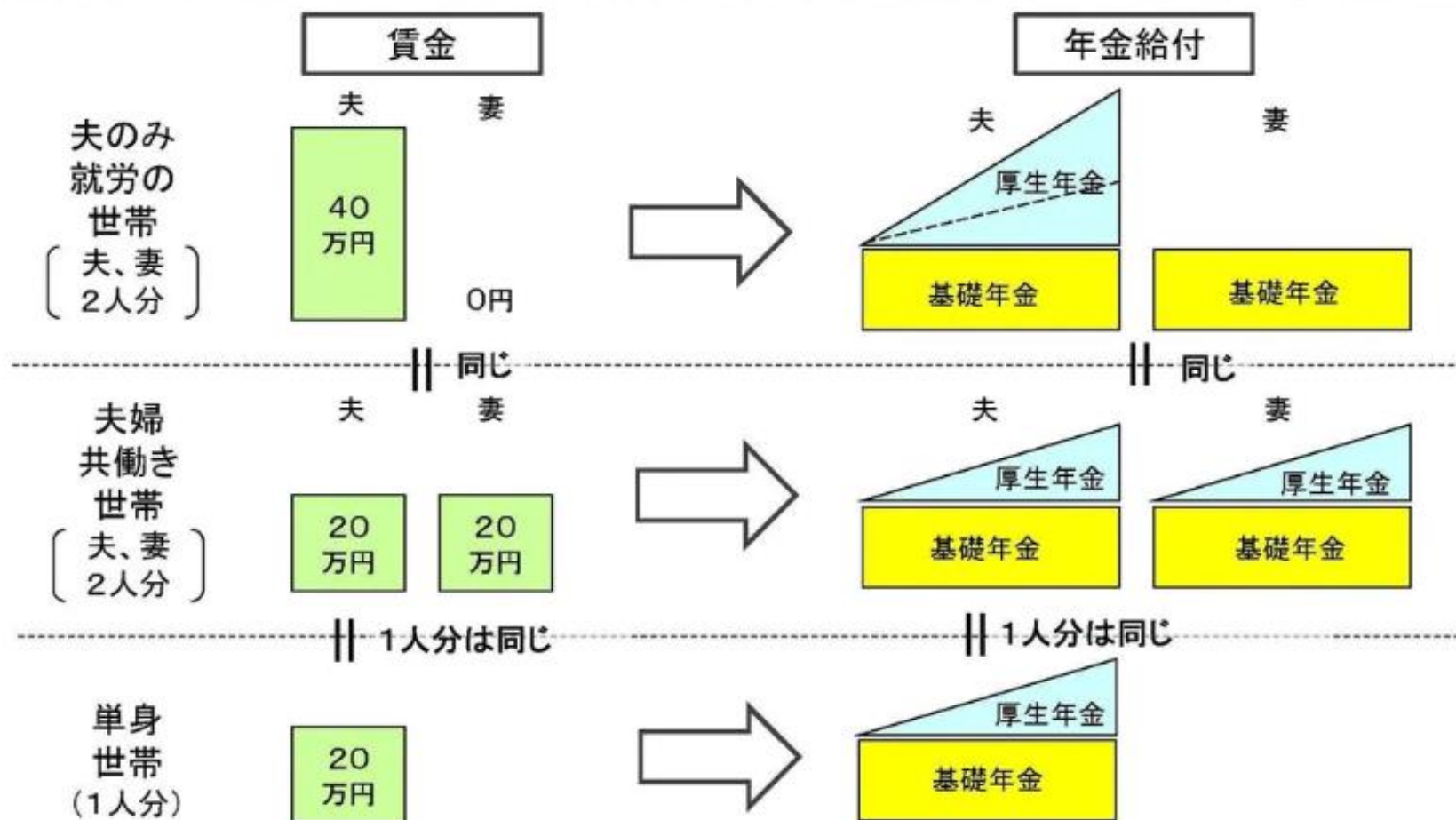
< 保険料と年金額のモデルケース(40年間加入) > ※金額は月額



(資料)厚生労働省パンフレット(2016)「短時間(パート等)で働く皆様へ 平成28年10月1日から厚生年金の加入対象が広がります！(社会保険の適用拡大)」より、筆者が一部変更して転載。  
(40年間加入)

## ■公的年金の負担と給付の構造（世帯類型との関係）

賃金水準（1人あたり）が同じ世帯における公的年金の負担と給付の構造（図による例示）



賃金水準（1人あたり）が同じであれば、どの世帯類型でも年金月額、所得代替率は同じ。

（出所）厚生労働省「2019年財政検証結果」

適用拡大の規模別にみた30歳（1994年生まれ）の男女の年金月額

(単位：万円)

|                           |          | 男 性        |      |              | 女 性        |       |              |
|---------------------------|----------|------------|------|--------------|------------|-------|--------------|
|                           |          | 平均<br>年金月額 | 増加率  | 7万円未<br>満の割合 | 平均<br>年金月額 | 増加率   | 7万円未<br>満の割合 |
| 成長型経<br>済移行・<br>継続ケー<br>ス | 現行制度     | 21.6       | —    | 1.5%         | 16.4       | —     | 1.5%         |
|                           | 90万人ベース  | 21.9       | 1.4% | 1.2%         | 16.8       | 2.4%  | 1.2%         |
|                           | 270万人ベース | 22.6       | 4.6% | 0.8%         | 17.6       | 7.3%  | 0.5%         |
|                           | 860万人ベース | 23.0       | 6.5% | 0.4%         | 18.0       | 9.8%  | 0.2%         |
| 過去30年<br>投影ケー<br>ス        | 現行制度     | 14.7       | —    | 7.4%         | 10.7       | —     | 19.3%        |
|                           | 90万人ベース  | 14.9       | 1.4% | 6.6%         | 10.9       | 1.9%  | 15.9%        |
|                           | 270万人ベース | 15.3       | 4.1% | 5.1%         | 11.4       | 6.5%  | 10.1%        |
|                           | 860万人ベース | 15.9       | 8.2% | 2.3%         | 12.3       | 15.0% | 2.9%         |

- (注) 1. 「増加率」は、現行制度の平均年金月額に対する各適用拡大を行った場合の平均年金月額の増加率をいう。
2. 「7万円未満の割合」は、年金月額の分布において月額7万円以下の比率をいう。
3. 現在30歳なので、2059年に65歳に到達する。

(資料) 厚生労働省(2024)「令和6年(2024)年財政検証関連資料」第16回社会保障審議会年金部会、2024年7月3日、資料4-2,p.16、p.24、p.28により、筆者作成。

ご清聴ありがとうございました